

北公民館

「大人と子ども」  
共に育つ地域づくり

岡田校区愛護部連絡協議会長 金子 智

岡田校区愛護部連絡協議会は、約30年間にわたり「大人と子ども」の地域活動を地道に支えてきています。愛護部活動は、ユニークなもので、県内各地で様々な工夫をこらした活動が行われています。特に、岡田校区では、中学生の「地域への積極的な参加」があり、他の愛護部からも評価されています。

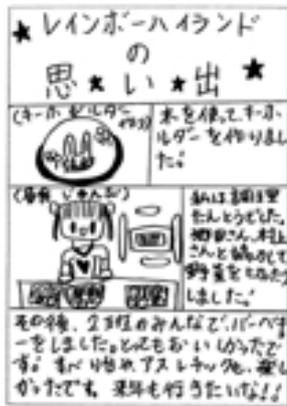
さて、岡田校区の協議会の活動は主に、①キャンプ活動、②事業（文化）活動、③広報・宣伝活動、④学習・教育活動をはじめ、関係団体との連携事業などです。キャンプ活動では例年、7月の下旬、小学校高学年を対象に日帰りキャンプを行っています。今年は7月26日（土）、松山市レインボーハイランドに約60名が参加し、自然との共生を感じつつ、日ごろ体験できないことを楽しんできました。参加した子どもたちの感想

は一冊の文集になりました。また、事業部では、昨年までの演劇鑑賞を見直し、今年12月に「高校吹奏楽部による音楽鑑賞会」を行う予定で準備を進めています。

これらの活動を年2回、「ふれあい新聞」で全戸に配っています。



岡田小学校5年 金子 将崇



岡田小学校5年 新谷 真世



さらに、青少年の育成、「おやおや？」といわれぬ親（大人）の自己啓発の機会を、学校や公民館、関係団体と連携を図り、学習・研修の場を持っています。やはり、青少年育成の基本は家庭内教育と思われ、愛護部も少しでも、子どもたちの成長の一助となれば幸いです。

ふるさとをたずねて

四国霊場納経帳物語

文化財保護審議会委員 相原隆志

今回は私事でいささか恐縮であるが、我が家に残っている4冊の古い四国霊場納経帳から往時の四国遍路の風俗をたどってみたい。

その一、一番古い納経帳は、私より4代前の丈次のもので、年代は安政7年庚申となっている。中央では徳川末期、吉田松陰の刑死、桜田門外の変と騒然とした世であった。その時期、四国では悠然と霊場巡拝が続けられている。表紙の「豫州松山伊豫郡鶴吉村 丈次」となっているのもおもしろい。

その二、分家の和一郎は明治14年生まれであるが29年の納経になっている。父の勝蔵に従って15歳で巡拝している。兵役前の風習としても少し早すぎる。なお、和一郎は日露戦争で戦死している。その三、本家の丑太郎は明治27年の納経帳があるが、これとは別に本人が自筆で書いた道中日記が残っている。

同郷6人の気の合った同士30日間の複数人による弥次喜多道中であつたであろう。時々、農作物の批評などとして郷里を

思い出している。〈南海道四国順拝道中略記〉明治二十七年旧二月十六日発ス。

十六日午後三時我村ヲ出發シ東ニ進ミ八倉ヲ過ギ高井村ニ至リ西林寺ニ参リ、其レヨリ久米浄土寺ニ参ル、其ノ道筋不作、我里ノ半作、其レヨリ畑寺繁多寺ニ参ル。其道筋モ上作ナラズ。時二日ハ暮レ其レヨリ石手寺ニ参ル、其ノ道筋ハ上作、夜道ヲ道後迄行キ米屋安太郎内二宿ス。

三月十五日 三十日目  
（久万町）朝四時ニ立チ北ニ進ミ浄瑠璃寺ヲ拜シ八坂寺ヲ拜シテ我家へ中飛。午後二時ナリ。  
順拝同行  
明治二十七年 村上龜太郎  
二月吉日 佐伯政太郎  
佐伯浪太郎 濟川五郎一  
相原丑太郎 水口節太郎

